桜丘街づくり結成30周年おめでとうございます

ソプラノ歌手　嶽道 優子

私が小野設計室のドアを開け、手紙をファックスでベルリンのフィリップ宛に送って頂いたのは1989年の11月でした。それから1年間余、彼とのやりとりの送受信を何度もお願いしました。暫くすると、小野さんと世間話もするようになって桜丘集会室の設計のお話もお聞きし、「ホールが完成したら何かやりましょうね」と言ってくださいました。

そして、1996年 クリスマスコンサートを主人と一緒に集会室(私達はコミュニティセンターと呼んでます)で演奏を機に、地域の活性化、街づくり運動の一環としてコンサート企画をする様になりました。

当時クリスマスコンサートのお客様は、ご近所のお買い物帰りの方々やお孫さんのお迎えの帰りに立ち寄られたお爺ちゃまやお婆ちゃま達でした。これこそ地域の為の音楽会だと嬉しくなりました。終演後開かれるミーティングでは、「ごみ収集の仕方(その当時ドイツのゴミ分け方は世界一でしたので)を話し合ったり」「一般の方々にクラシック音楽を楽しんでいただくにはどう取り組んで行けば良いか」などについて、テーブルを囲んで、お菓子を頂きながら、皆さんで話し合いました。

その後、まちづくり活動には、商店街の方々、お肉屋さん、本屋さん、果物屋さん、八百屋さん、お菓子屋さんなど、毎日歩いている路地のお店のオーナーの方々も出席されるようになりました。

私にとってはコンサートの後にこのような方々とのミーティングは初めての事でしたので、興味深々でした。

ある時、ミーティングのテーマはこの様なコンサートをどうサポートするかという事が話題になりました。すると小野さんから「江戸時代は勿論のこと、モーツァルトの時代だって、こういう商売をやっている人たちが文化に貢献したんだから、我々が協力し合えば、絶対やっていける」という素晴らしい意見をお聞きしました。その日は、終演後にバイオリン奏者のイスラエルヴィッチさんも、一緒に参加していて、その言葉に彼が非常に感銘していたのを覚えています。実は、後に彼も地元トロントの地域社会の集会で、桜丘のこの日のことを話したそうです。また、彼のコンサートには近所の多くの小さな子供達が、前方の床に座って静かに音楽を聴き入っていた事も、とても印象的でした。

コンサートを開催するにあたり、一番難しい事は、聴衆の動員です。それに殆どの方が初めてコンサートの企画に関わる方ばかりでした。

最初の頃は、商店街で、ある一定の金額を買い物したお客様たちが、チケットを得る為のクジ引き券をもらい、クジ引きで当たった方々が来場できるというシステムでした。この案も流石だなと思いました。

コンサートは初めてとか、クラシックは一度も聞いた

▲フルートデュオコンサートのチラシ

ことがないので、という聴衆が殆どでしたが、とても暖かく、ノリの良いご近所のお客様方でした。

当時２７歳だったフルート奏者のダビデ フォルミザーノも、お孫さんの手を引いてきたお客様達に感動した彼の企画で、ミラノ・スカラ座に於いて６５歳以上１５歳以下(は半額)の為のコンサートを何年にもわたって開いてきました。これも元祖は桜丘まちづくり協議会の音楽会の企画です。

最初の頃、「いやあクラシックは苦手」とおっしゃっていた商店街の方々も、「最近クラシックに詳しくなってきて」という嬉しいお話を聞きます。お客様からも「クラシックが大好きになってしまった」という声も聞こえます。なんて素晴らしい事でしょう。街づくりの皆様の貢献の賜物です。そしてお客様のマナーも演奏家達が感銘するほど、最近では素晴らしい聞き方をされています。

千歳船橋、桜丘は世界でもユニークな所だと思っています。私も多くの海外の友人達に桜丘まちづくり活動を紹介し、この街を見にきてもらっていますが、海外の皆さんでも直ぐにこの街に打ち解け、「住民の一人になったみたい」と言ってくれます。街を歩くと皆さんと挨拶し会話をし、果物屋さんの前を通ると、「今日は美味しい果物があるよ」と、果物をくださったり、お肉屋さんでは、「美味しいのがあるから一枚持って行って」と主人も友人も人々の親切にびっくりしますが、この人情溢れる街である故に、良い文化もコミュニティも成り立っているのだと思います。

そういった商店街、地域の皆様が中心となって結成された街づくり30年の歴史ある活動、その弛み無い誠意と尽力に心から感謝し、次の記念の年を期待して、益々の発展を祈念致します。

VOICE ～ヴォイス～

桜丘に住んで丸17年

植松葉子

この街との出合いは、1999年12月、一年間のドイツ生活を終えて帰国をした翌日でした。同じく桜丘に住まいを持つ、ソプラノ歌手の嶽道優子さんに誘われて、まちづくりのコンサートに夫婦で出演させて頂きました。コンサートの運営スタッフの、きめ細やかな心配りと、街に漂う、世田谷らしからぬ(?)どこか下町のような、親しみやすい雰囲気にすっかり魅せられて、すぐにこの町の事が大好きになりました。

コンサートでは、前の日まで暮らしていたヨーロッパのコンサートで目にするお客さん達のような、和やかな、そして自然体で音楽を愉しむ空気が溢れていて、夫婦でとても感激した事を昨日の事のように思い出します。ちょうど、ドイツから帰国後は、都内に引っ越したいと思っていたので、まちづくりスタッフでもあった、小野建設計室の小野さんに、土地探しから設計までをお世話になり、2002年に移住が叶いました。

2010年からは、地元笹原小学校の放課後に、お囃子の教室を持つようになり、さらに地域との交流が深まり、区民センターの行事や、学校の行事などにも夫婦で出演させて頂いたりしています。2013年に子どもが生まれてからは、子育てがとてもしやすい街でもあると実感しています。気がつけば、準急電車が止まる駅になり、これからも益々進化していく桜丘の町を、楽しみに見守って行きたいと思っています。

V まちづくり協議会の運営

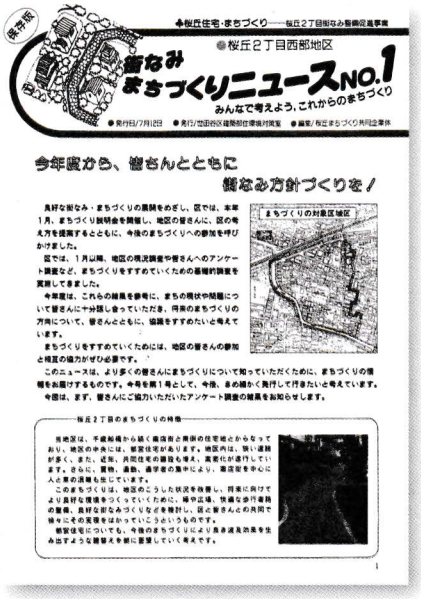
まちづくり協議会の活動に対して、会の運営を円滑に進めるために世田谷区から専門家を派遣する制度を利用しました。細かな手続きは、コンサルである地域研が次年度の活動予定と予算書を区に提出して、予算をつけてもらうことから始まります。ただ、次年度にどのようなことに取り組みたいかについては、毎月最低1回開かれる定例会で話し合われました。活動内容が適切と承認されれば予算がついて、コンサルが年度末には活動状況や成果をまとめた報告書報告書を提出するといった流れです。

まちづくり協議会は会長1名(新川複吉さん)、副会長4名(曽根平さん、二口操さん、市川修さん、黒田猛さん)を含め17名の運営委員で運営され、協力会員を含めると38名の組織となりました。協議会のメンバーは、桜丘町会、千歳船橋参商会(参商会)、稲荷森稲荷神社総代、地域の小中学校のPTA、青少年委員と地域のまちづくりに関心のある有志で構成されていました。会運営は、町会、商店街、神社との連携が重要になることから、これらの組織すべてで役員を務める中島巌さんにも参加してもらうことになりました。協議会の担当窓口は世田谷区の地域振興課で、オブザーバー的な立場で参加していました。後にまちづくり課が担当窓口になりました。また、議題によって駐輪対策や土木課、消防署の方などに参加してもらい、必要な情報について説明をしてもらいながら、様々な課題に取り組みました。その場では、区の計画が進まない理由など区の職員の本音も伺うことができ、「協議会としてどのような形で協力すれば区で考えている計画が円滑に進むか」なども検討されました。会の参加者は常に20名以上で、全員に発言の機会を持ってもらうため、4つほどのテーブルに分かれて討論し、最後にグループ発表するという形式をとりました。そして、各グループの良いところを全員で確認して提案に結び付けるといった方法をとりました。

後ほど紹介する商店街の駐輪問題なども、行政だけでは解決できない問題でした。そこで、協議会のメンバーが同じ住民として、毎朝自転車が放置される場所に立ってあいさつを交わしながら住民に呼びかけたことで、限られた場所に決められた場所に駐輪するようになり、この問題は解決することができました。このように、行政には、バックアップ支援をお願いするだけで、行政に表立って動いてもらうことは、ほとんどありませんでした。したがって、協議会のメンバーと行政の担当者との信頼関係も構築され、まちづくり協議会のイベントでは、区の職員も手弁当でお手伝いに来てくれるといったこともたびたびでした。このようなことができたのも、区の職員も規則によって縛られることも少なかったので、自分の判断で柔軟に対応できたためと思います。かといって、公務員としての義務や責任を逸脱したわけではありません。「まちづくりは人づくりから」の理念が、まちづくり協議会と協働の活動になったことが、区職員の人づくりにもつながったと思います。このような、桜丘まちづくり協議会での経験や楽しい思い出を持っている世田谷区の職員の方が、区の各方面で活躍していると聞いています。

協議会発足に際しての運営委員のコメントが残っているので、紹介します。

※街並み街づくりニュースNO.1 1991.9.10発行より



▲街並み街づくりニュースNO.1

VI 定例会などの運営内容

定例会では、回ごとにテーマを決めて検討しました。また、住民から寄せられた課題や区の関係部署から提示された課題についても、ポストイットによるKJ法やホワイトボードなどを利用して検討されました。課題によっては、いくつかのテーブルに分かれて意見交換が行われ、グループごとにまとまった案を発表するという形式が多くとられました。このような意見交換の場でも、確認されていたことは「自分の意見だけを強要しない」「他の人の意見に否定的な意見はいわない」「出席者全員が、発言する機会を持つ」ということでした。

例会の議事進行は会長や副会長が交代で行いました。コンサルである若松氏と小野氏は議事内容の補足説明を行いました。区から出席していた職員もオブザーバーという形で、資料説明や区の制度などの紹介をするという形で進められました。議長は、出席者全員が発言できるような機会を持ちながら進行しましたので、毎回ほぼ全員(20名以上の会員)が出席するといった状態でした。せっかく定例会に出席しても、一言も自分の意見を述べずに閉会になってしまうと、出席する意味がなくなり、次回から出席する意欲がなくなってしまうことを避けるためです。

人前で意見を述べることが苦手な人のために、みんなで模造紙に絵を描いたり、紙模型などを作って検討しました。様々な課題の検討には、このような「ワークショップ形式」で行いました。問題になっている場所を直接訪れ、写真を撮ったり、地面にロープを張ったり、段ボール箱を並べて確認するといったことも行いました。また、区や出席者の中から、他の地域の事例などの紹介があると、相手方を訪問して関係者からお話を伺うなど、みんなが楽しんで活動してきました。忘年会など、自己負担で飲食会を催すなどの懇親会も、新しいテーマを見つけるには重要な場となりました。

まちづくり協議会の活動状況については、年に4回ほど発行される「街並みまちづくりニュース」を若松氏が作成して、まちづくりエリア内の家庭に配布するとともに、区の掲示板にも掲示して周知しました。様々な案内の配布は、協議会会員が担当エリアを決めて配布するようにしました。このようなまちづくり活動で、様々な成果が出るようになると、地域の方からもまちづくり協議会の活動が認識されるようになり、いろいろな方から労いの言葉をいただくようになりました。

これほど永くまちづくり活動が続けられたことは、協議会の会員が「自分たちで検討してきた夢が成果となって現れることで、自分たちの街が良い方向に変わっていくことに貢献している」という楽しみがあったからだと思います。

机上だけでの議論では、具体的なイメージがつかめないことも多くあったことや目に見える成果物が必要だということで、世田谷区の住環境対策室の佐藤洋課長や真野源吾係長、石毛淳氏などの計らいで、まちづくりエリアのジオラマを作り、定例会では、その模型を囲んで検討しました。また、後述するリサイクルBOXやまちづくり掲示板なども、区の職員の方の計らいでできたものです。まちづくり掲示板は、現在も都営住宅敷地の北西角に、2代目が引き継いでいます。また、ジオラマ模型は、毎年春に行われる「桜まつり」で展示され、30年前の地域の様子を垣間見ることができます。子どもや孫が背伸びしながら、模型を見て指をさしている質問している所の説明している両親や祖父母と思われる姿を見ると、当時作成に3か月ほどかかりましたが、まちづくり活動の人づくりに貢献している成果物の一つだと思います。

▲ジオラマ模型

VII

桜丘二丁目西地区まちづくり協議会からNPO法人世田谷桜丘まちづくりへ

【背景】

平成元年(1989年)に組織された桜丘二丁目西地区まちづくり協議会ですが、NPO法人に組織化するまでは、区の施設や商店会事務所を借りて会合などを行ってきました。計画案の作成やイベントのための機材なども分散して会員が預かる状態でした。また、急に会合が必要になっても、区の施設が満室で利用できないこともたびたびありました。このように活動するうえで不便を感じていました。そんな中、平成17年(2005年)に、世田谷産業振興公社の商業課から参商会の太田十郎理事長のもとに「商店街の空き店舗を商店街の活性化につながるような利用の仕方をすれば、3年間の家賃が商店街振興組合に補助される」という情報がもたらされました。そして、太田理事長から「商店街の活性化事業を行いながら、まちづくり協議会の活動拠点として利用してはどうか」という提案がありました。協議会がいままで商店街づくりに協力していたこともあり、区の担当者から空き店舗を活用して商店街づくり、まちづくりの活動拠点としてはどうかという提案でした。商店街の真ん中に空き店舗がありましたが、貸す予定のないとのことでした。太田理事長が大家さんに話して、「商店街の活性化につながることなら」ということで、賃借することになりました。家賃補助の条件としては「商店街と連携して事業を進めること」「NPO法人などの組織であること」が対象ということでした。

【検討】

まちづくり協議会としては、人づくりのための様々な活動を検討してきました。しかし、まちづくり協議会としての活動拠点を持っていなかったために縮小せざるを得ない事業もありました。早速、当時まちづくり協議会の会長であった荒井芳夫さんのもとで「事務所として借りること」と、「NPO法人化」についての検討を行いました。課題となったのは、NPO法人化すると毎年事業報告や会計報告、活動計画と予算を東京都に提出しなければならないなどのわずらわしさがありました。それでも、会員の廣田陽一税理士から「会計は私が行うから大丈夫」といった意見もありました。後述しますが、まちづくり協議会の会合場所として、現在の消防団の格納庫の2階を検討した時期もありましたので、活動拠点ができることは、まちづくり協議会の夢でした。したがって、全員がNPO法人化しようということに賛成しました。NPO法人設立の手引書を見ながら申請書を作成して、今までの活動実績なども評価され、東京都の認可もおりました。平成17年(2005年)7月に「NPO法人世田谷桜丘まちづくり」で法人登記を済ませて新たな組織でスタートしました。名称に世田谷がついたのは、「桜丘という地名は全国にいくつもある。世田谷をつけたほうが間違わないで済む。まちづくりといえば世田谷というイメージだ」という意見が出たためでした。

次に、議題になったのは、家賃の補助が出ても、運営費をどうするかということでした。商店街の真ん中なので「リサイクルコーナーを設けて、住民に貸してはどうか」などの意見が出ました。又貸しということは頭になかったため、しばらくはコーナーを設置しましたが、利用者が少なかったこともあり、まちづくりで運営するリサイクルコーナーに取り込むことになりました。事務所の運営に関しては、事業ごとに後述することとします。

【結果】

まちづくり活動の拠点ができたことで、会員もいつでも立ち寄れるようになり、会合でも、事務所活用の様々なアイディアが出されました。また、商店街との連携事業もしやすくなり、後に説明するような活性化のためのイベントも多く催すことができるようになりました。気軽に住民が立ち寄れる場所ということで、熱中症対策のための給水所や休憩所、トイレの利用など、地域住民にとってのコミュニケーションの場とし

て活用され、住民からの意見を伺う場としても重要な施設となりました。

NPO法人としての経済状況ですが、リサイクル品など提供と協力者の方の寄付で、何とか運営を続けられる状態で推移しています。しかし、店舗の都合で同じ建物の2階に移転することになってからは、狭く急な階段が支障になるなど立ち寄り難くなり、リサイクルコーナーの利用が急減して資金的には厳しい状況が続いています。

▲コミュニティサロンの様子

▲リサイクルコーナー

VIII 桜丘及び千歳船橋駅周辺のまちづくり活動の成果

今まで活動してきたまちづくり協議会発足からNPO法人での成果について、時系列的にまとめます。まとめに際しては、今後のまちづくりの参考になることもあったことから、単に成果物の羅列ではなく、事業に取り組むようになった背景も交えながら、どのように進めていったかなどを含めてまとめていきます。

❶まちづくりニュースの発行　平成元年(1989年～)

【背景】

桜丘のまちづくりがスタートした時点からまちづくり活動の広報誌として「まちづくりニュース」を発行してきました。それまでは、街づくりというと太子堂地区などの密集地での防災まちづくりという認識しかなかった時代です。世田谷のまちづくりが全国でも先駆けていたといわれるのは、太子堂のまちづくりの事例があったことが一要因になっていると思います。緑も豊富で田園風景の残る桜丘地区で「防災まちづくり」といってもピンとこないのは当然です。したがって、「街づくりは他の地区のこと」と思っていた方が多かったのではないでしょうか。そんな中で、前述したHOPE計画の候補地として桜丘地区が取り上げられることになったわけです。そして、2丁目の西地区にある都営住宅の建て替えへと進んでいくわけですが、そのためには住民の方にまちづくりの住民への周知方法としてニュースを発行することになりました。

まちづくり協議会が発足する以前に8号までの『街なみまちづくりニュース』が発行されています。この時のニュースは、桜丘地区のまちづくり活動がスタートしたことやまちづくり整備方針などについて、地域住民に知ってもらう内容でした。その後、まちづくり協議会がスタートしてからは、まちづくり協議会が取り組んでいる活動内容などの紹介となりました。

【検討】

ニュースの内容は、これから取り組もうとしている課題やこれまでの課題に対してどのように対応しているかの経過を地域住民に知ってもらうという構成になっています。まちづくり活動は継続であるため、保存して見直してもらう必要がありました。そこで用紙も保存可能な厚紙と色紙として何号かがわかりやすく構成しています。一方的に情報を発信するだけではなく、まちづくり協議会の会員や会に参加した方のコメントを載せることで、まちづくりをより身近に感じてもらう内容になっています。言葉だけで理解が難しいと思われる内容は、写真や図で説明することとしました。ニュースの配布は、会員自らがエリアを分担して配布しました。

【結果】

ニュースを見て、協議会の活動に参加する方や道ですれ違った見知らぬ人からも「ご苦労様です」と声をかけられたという会員もおりました。NPO組織後も発行しておりましたが、ホームページを作成してからは、ホームページでの情報提供だけになっています。それでも25年間ニュースとして発行しています。今までに発行されたニュースは、すべてNPO事務所に保管しておりますので、活動経緯や関わった人達を知ることができます。まちづくり活動の発足当時から活動している方も少なくなり、都営住宅、桜樹広場、駅舎や駅前広場、城山通りの歩道拡幅ができた経緯を伝える人も少なくなりました。まちづくりは、リサイクルやイベントを行っている組織と思われている方もいるようで、「何をしている組織ですか？」という質問を受けることもあります。

そこで、従来の「まちづくりニュース」を一新して内容も新たな「桜丘まちづくりニュース」を発行することになりました。第1号は平成19年(2007年) 5月に発行され、NPOの活動を紹介する「桜丘まちづくりだより」「地元企業の紹介」「桜丘の先生へのインタビュー」「地域で活動する団体の紹介と行事予定」などを載せて、単にまちづくりの事業報告だけでなく、地域の方に興味を持って見ていただける「まちの情報誌」としての機能を幅広く持たせる編集を目指しました。桜丘助け合い隊の設立に当たってのアンケート結果や「桜丘に駄菓子屋さんがやってきた」などの記事は多くの人の目に触れて、関心を呼びました。また、桜丘のあちこちに見られる野菜の即売所の紹介や、東京農業大学が平成２年に箱根駅伝で５位に入賞した時の監督のインタビュー、桜丘の名所を紹介する「桜丘の歴史と風物シリーズ」も人気の高いシリーズでした。以後平成26年(2014年) 4月の15号まで続きましたが、その後、編集者の都合で休刊しているのは残念なことです。いずれ復刊できるといいのですが。

桜丘まちづくりニュース《春季号》　№1　平成19年5月発行

発行：NPO世田谷桜丘まちづくり

『桜丘まちづくりニュース』創刊に当たって

NPO世田谷桜丘まちづくり　理事長　荒井　芳夫

日頃は当NPOのまちづくり活動にご理解並びにご協力を賜りまして誠にありがとうございます。まちづくり活動開始して20年近くになり、平成17年7月には任意団体の桜丘まちづくり協議会から非営利活動法人（NPO）世田谷桜丘まちづくりに衣替えしました。また、同年11月には稲荷森稲荷神社前に事務所を兼ねた「桜丘コミュニティステーション」を開設し、地域の皆様の交流の場や情報発信の場としてなどご利用いただいています。

これまで、音楽会やまちづくり祭りやウォーキングラリーなどイベントの企画・運営、公園清掃、道灯広告物撤去、桜丘わんわんパトロールの事務局など幅広く活動をしてきました。今後は、高齢化への対応や、企業退職者などの地域活動の受け皿となるべく一層努力していきます。

当NPOは、地域住民のみにより組織・運営され、地元商店街や企業などからのご支援・ご協力をいただきながら、私たちの街をよりよくするために活動しています。このような活動や地域の情報などをお知らせするために『桜丘まちづくりニュース』（当面は季刊）を発行致します。今後とも宜しくお願いいたします。

桜丘まちづくりだより

【ＮＰＯ世田谷桜丘まちづくりの平成18年度の活動報告】

平成 17 年７月にＮＰＯ世田谷桜丘まちづくりが発足してから２年目の事業年度を迎え、前身の桜丘まちづくり協議会での活動をベースに、更にまちづくりの発展を目指して平成 18 年度の活動を進めて参りました。

＜主な活動・イベントなどの実績＞

平成 18 年４月 23 日(日)　第 13 回桜丘まちづくり祭り開催（桜樹広場にて）
平成 18 年７月１日(土)　桜丘コミュニティステーション開設
平成 18 年 10 月 22 日(日)　第６回桜丘ウォーキングラリー実施
平成 18 年 11 月 18 日(土)　古着・古布回収実施（桜丘小学校、芦山神社、桜樹広場にて）
平成 18 年 12 月９日(土)　桜丘まちづくり音楽祭開催（桜丘集会室にて）

【ＮＰＯ世田谷桜丘まちづくりの平成 18 年度の活動計画】

昨年度は、ＮＰＯ活動の基本的な活動方針を探る活動を行ってまいりました。コミュニティステーションを訪れる住民の方々から、様々な情報を頂くことができ、その中でまちづくり活動に対する期待がひしひしと感じられました。また、」毎月２回の例会での話し合いや他地区の活動団体のヒヤリング、関係機関の意見を伺って、平成 18 年度の活動目標を「コミュニティ形成」としました。具体的な活動として、地域ぐるみで「人々の心をつなげるまちづくり」を推進するため進めるため「桜丘助け合い隊」（仮称）を立ち上げます。

また、一緒に活動していただける方を随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。

【平成 19 年度（５月以降）の催し物スケジュール】（都合により、変更等の場合もあります）

＜ＮＰＯ世田谷桜丘まちづくり＞

５月 19 日(土)　９～11 時　古着・古布回収（桜丘小、恵原小、芦山神社にて）
10 月８日(月)（体育の日）　ジェニー・ゴールウェイ（フルート）コンサート（桜丘集会室にて）

1

10 月 21 日(日)　第７回桜丘ウォーキングラリー
11 月 17 日(土)　９～11 時　古着・古布回収（桜丘小、恵原小、芦山神社にて）
11 月下旬頃　ダビデ（フルート）コンサート（桜丘集会室にて）
12 月８日(土)　桜丘まちづくり音楽祭（桜丘集会室にて）

【第 14 回 桜丘まちづくり祭りが開催されました】

今年で 14 回目となる桜丘まちづくり祭りを４月 15 日（日）に稲荷広場にて行いました。今回は桜丘町会のお花見が中止になったため、ＮＰＯ世田谷桜丘まちづくりと桜丘町会の共催とし、開会挨拶の後、和響太鼓の皆様にお祭りを盛り上げて頂きました。

今年のイベントの内容は、木工細工教室、東京農業大学の上岡洋輝博士による歩行測定による足腰の予防、フリーマーケット、竹トンボ製作、駄菓子屋、ヨーヨー釣り、ソースせんべい、折り紙教室、リサイクル推進協議会による世田谷ロール（トイレットペーパー）の販売、参観会による焼きそば・ジュース・花の販売、桜丘町会による甘酒の無料ご提供、展示などや国も天候に恵まれて、大勢の人がご来場頂き、親と子、地域の交流を図ることが出来、たいへん有意義な一日でした。

ご支援・ご協力いただきました団体や皆様に御礼申し上げます。また、来年以降もこの時期に開催していく計画ですので、ご意見やご要望がございましたら、お教えください。

【古布・古着の回収のお知らせ】

古布・古着の回収を行います。また、当日の作業（トラックへの積み入れ等）をお手伝いいただける方も募集しておりますので、下記のいずれかの場所に直接お越しください。次回は 11 月を予定しています。

＜日時＞　５月１９日（土）　９：００～１１：００　※雨天の場合は翌週２７日（土）に順延
＜場所＞　①桜丘小学校（南門）、②恵原小学校（東門）、③芦山神社（南側広場）
＜方法＞　古着は洗濯し、東京都指定のごみ袋など透明又は半透明の袋（45ℓ以下）に入れてお持ち下さい。
　　未使用・新品のものは、古布・古着とは袋を分けて下さい。
＜目的＞　①布資源のリサイクル（ウエス（工業ぞうきん）や反毛（フェルト原料）に再資源化されます）
　　②未使用・新品はリユース（再利用）
　　③処分費用の節約（通常のごみとして区が処分する場合、キロ当たり 55 円の燃料代が必要です）

【「桜丘助け合い隊」などに関するアンケート調査について】

ＮＰＯ世田谷桜丘まちづくりでは支援を必要とするお年寄りへの支援を推進するために「桜丘助け合い隊」の設立を計画いたしております。そのため、ご意見を伺い、支援する側に参加するご意思を確認させていただくためのアンケートを桜丘に在住の全世帯にお配りし、現在、集計中です。アンケートにご協力いただいた皆様には早くお礼申し上げます。極力早く体制を整えて、支援を期待する方々のお役に立てるように進めてまいります。

支援していただく方も随時募集していますので、お気軽にＮＰＯ世田谷桜丘まちづくりへお問い合わせ下さい。

【桜丘コミュニティステーション開設のご報告とバザー品提供のお願い】

平成 18 年７月に、誰もが利用できる場として「桜丘コミュニティステーション」を稲荷森稲荷神社前に開設しました。買い物帰りの休憩、トイレの利用、趣味の講座など地域の皆さんの交流の場や溜まり場として便利にお気軽に利用していただければと存じます。また、リサイクル用品等が目立っておりますが、これはごみを減量することで「地域環境に配慮したまちづくり」を目的としているためです。バザー用品のご提供もお願いします。

千歳船橋

2

▲桜丘まちづくりニュース平成19年5月刊

❷まちづくり掲示板と空き缶のリサイクル事業
平成2年(1990年)

【背景】

現在、都営桜丘第3アパートのある場所には、元々は木造平屋建ての都営住宅が建っていました。老朽化が進んだことと、敷地の高度利用を目的に、東京都は建替えを決定しましたが、居住者との移転先などの問題もあり、数軒が歯抜け状態で残っていました。このような状態が長く続いていたものですから、空き家になった場所は自転車や布団、家電製品、飲料水に空き缶、空き瓶の捨て場になっていました。商店街に隣接する住宅地ということもあり、まちづくり協議会の重要課題の一つに挙がっていました。

協議会で議論する中で、「規制するだけでは街はよくならない。住民の人たちにも、『自分たちの街は自主的に良くしよう』という意識を持ってもらうことが必要ではないか」という意見が多く出されました。そのためには「協議会のメンバー自らが手本になろう」ということで、都営住宅敷地内の北東角にアルミ缶や瓶など回収箱の設置、リサイクル活動も行っていました。この活動は、その後のペットボトルのキャップ回収、古着古布回収、リサイクルステーションへと継続して、環境に貢献する活動となっております。

北西側の角には「まちづくり掲示板」を設置しての啓発活動にも努めました。現在、寿司屋さんの前にあるまちづくり掲示板は、まちづくり活動のPRのために同じ位置に設置したものですが、現在は管理の関係で区民センターが管理しています。まちづくり掲示板は、協議会の会員の方にお願いして、塀などに設置してもらいました。また、高架下の駐輪場が完成するまでは、毎週協議会メンバーが放置自転車の移動などを行いながら、通勤通学の方に決められた駐輪場への駐輪をお願いしていました。

【検討】

定例会で検討された内容は、「ただ『ごみ捨て』禁止の立て看板だけでは効果が上がらない。もっと、積極的にごみ問題を考えてもらえるようなことが大事である。ごみを資源としての視点で考える必要ではないか」といった意見がありました。今でこそ、資源ごみという観念がありますが、当時は「ごみを資源」という考え方は、まれな時代でした。また、まちづくり協議会がこのような問題に取り組んでいるということも周知する必要がある。そして、具体的に目に見える活動をする必要があるといった意見がありました。

【結果】

現在、都営桜丘第3アパートの北西角に金属製の立派な掲示板ですが、当初の「まちづくり掲示板」は、丸太を組み合わせた木造の掲示板で、まちづくり協議会の会員の手作りで、自ら地面に穴を掘って建てました。清掃や展示物の張替えなども会員が行っていました。商店街に面した通りの角であったことから、地域住民からお願いされた展示物(営業行為以外)も掲示され、地域の情報版としての役目を果たしていました。都営住宅の建替え時に撤去され、現在のような掲示板になりました。道路の拡幅で当時の位置よりセットバックしましたが、同じ位置に立っています。

ほぼ、同じ時期に設置されたのが、空き缶のリサイクルBOXでした。設置することはできるが、回収や清掃をだれが行うかということが、課題となりました。その時、会員の方から「空き缶のポイ捨てで悩まされているので、自分たちでやります」とかって出ていただいたのが、飯沼楊子さん、依田みのりさん、宮永恵美子さん、二口さんたちでした。リサイクルBOXの前に花を飾るなど、街並みの美化にも努めました。設置当初は、空き缶や空き瓶の収集場所と勘違いして、家庭にある空き缶などもたくさん持ってくる人もいました。また、アルミとスチール缶の区別がつかなくて一緒に入っているなど、仕分け作業が大変でしたが、設置意図が理解されるようになると分けて入れてくれるようになりました。1週間にごみ袋5袋ほど集まり、近くにあったボランティアセンターに持っていきました。それらをリサイクル業者に売却してボランティアセンターの活動資金に充てられていました。

活動の目的は、単にアルミ缶を回収するということではなく、「ごみ問題を自らの問題として考えてほしい」という意図がありましたので、まちづくり掲示板に

もこのようなニュースを掲示しました。これらを製作費用については、活動助成として区に申請した助成金が充当されましたが、設置については運営委員自らが組み立て工事を行いました。

❸桜丘まちづくり計画の策定　平成2年(1991年)

まちづくり協議会が最初に取り組んだ作業は、桜丘2丁目西地区の街の将来構想をまとめることでした。まちづくり協議会はボランティアセンターの2階の会議室(現在のまいばすけっとの2階)で毎月午後7時から9時まで行われました。

約1年の活動の中で、以下のような内容がまとめられました。

【検討された課題】

●道路交通環境と改善の方向検討
(放置自転車、路上駐車、ごみ問題など)

●街並み整備方針(地区の将来整備方針)のまとめ作り

【桜丘2丁目西地区街並み整備方針】

1) 地区外周道路の改善
2) 地区プロムナードの整備
3) 放置自転車対策
4) 小田急線複々線化に伴うまちづくりの整合
5) 広場と緑の環境づくり
6) 住宅・住宅地の環境づくり
7) 商店街の活性化と環境づくり
8) 身近な生活環境づくり(ゴミ問題)

等で、これが基本となって、当地区のまちづくりが進められることになりました。

❹まちづくり祭りから桜まつりへ　平成3年8月(1991年～現在)

現在、毎年4月に桜樹広場と千歳通りの土手で行われている「桜まつり」は、当初、千歳通り側は町会主催、桜樹広場側はまちづくり協議会主催で行われていました。桜樹広場での「まちづくり祭り」は当初夏休みの8月に行っていましたが、「せっかくの桜があるのだから花見の季節に行った方がよいのではないか」といった意見があり、4月上旬に行うようになりました。やがて、「同じ時期でのイベントであれば、日にちを合わせて一緒に行った方が盛り上がるのではないか」という意見があり、平成20年に現在のように合同で行われるようになりました。

【背景】

都営桜丘2丁目住宅の建替えが決まり、残っていた住宅も解体され、いよいよ次の年から建替え工事に取り掛かることになりました。そこで、せっかく広場になったのだから、夏休みにこの広場で子供たちが自由に遊ばせてはどうかという提案がありました。原っぱで遊んだことのない子どもたちに、自然の中で自由に遊んでもらいたいというのが主旨でした。また、「まちづくり活動を地域の方に知ってもらうこと」と、「地区住民の交流と親睦を図りたい」ことも目的でした。平成2年(1991年)の8月の夏休みに第1回の「まちづくり祭り」が開催されました。綿あめや伝承遊びなど普段部屋の中でしか遊んでいない子供たちにとっては珍しいこともあり、遅くまで遊んでいました。この時の子供たちの生き生きした笑顔が、第2回、第3回へとつながっていきました。町会や商店会、土建組合などの協力で毎年桜の季節に開催されています。それまで、町会の桜まつりと別々に開催していたのですが、地域の祭りにしようということで、「桜まつり」という名前で開催することになりました。

【検討】

夏休み中子どもたちに開放して遊んでもらうことについては全員賛成でしたが、長年空き地となっており、いろいろなゴミが捨てられていたこともあり「子どもたちがけがをしないだろうか」とか「公園でしか遊んだことのない子どもが自然の中で遊んでくれるだろうか」などの意見も出されました。そんな中、せっかくだから大人も巻き込んだ地域のイベントにしたらどうかという意見が出ました。こうなると、まちづくり協議会の会員はいろいろな組織から参加していましたので、楽しい提案がいっぱい出されました。

当時は東京都の管理する土地であることから、使用するための承諾をもらう必要があること、食べ物を

扱うには保健所への申請があること、事故に備えて消防署へも届けが必要、一部の道路も使うため、道路管理者や警察への届など多くの手続きが必要でした。運営委員が手分けして、開催に向けての準備が進められました。

【結果】

一番の問題は、果たして子供たちが集まってくれるかということでした。そこで、具体的なイベントの様子がわかるようなイラストをプロにお願いして作成しました。このイラストは現在でも「桜まつり」でも使用しています。このチラシを、夏休み前に地域の小学校や幼稚園、保育園に配布しました。更に、区の掲示板や商店街の店頭、運営委員の塀に張るなどPRに努めました。

会場となる場所は、以前の都営住宅の解体したこともあり、ガラス片や金属片などが散乱してそのまま使用するには危険でした。このまま開催したのでは、事故に繋がる危険性があったことから、炎天下の中、運営委員が総出でガラス片や金属片の撤去や事故に繋がりそうな障害物の撤去作業を行いました。

当日の午前中からまつりの準備を行い、イベントは午後2時から午後7時までという長い時間でしたが、300人以上の子どもたちの参加者がありました。大人も参加していましたので、ピーク時には空き地いっぱい人であふれました。既存の樹木が多く残っていたこともあり、木の枝にロープを結び付けたブランコなども作りました。綿菓子や輪投げ、手作りコーナーなど、子どもだけではなく親も、そして主催者も自然の中で大いに楽しめたイベントでした。

【桜まつりへ】

当初は、都営住宅建設前の空き地を利用する1回だけの予定で行われたイベントでしたが、反響が大きかったことから、都営桜丘第3アパートが完成した後も春休みの桜の咲く時期に行うようになりました。同時期に桜丘町会主催で千歳通りの丘の上で花見の会が開催されていました。まちづくり祭りは、組織や年齢にこだわらない地域の祭りとして回を重ねてきたわけですが、「同じ主旨の行事であれば、町会のお花見と合同で行った方が地域ぐるみの祭りになるのではないか」ということで、参商会の理事長でNPOの副会長をしていた太田十郎さんが桜丘町会の役員会で話をしてもらい、平成20年(2008年)から現在のような合同イベントとしての「桜まつり」へと発展しました。イベントの協力団体として児童館、消防団、土建組合、地域の学校や商店街、世田谷区のリサイクル推進協議会の人たちも参加するようになりました。当日の運営に際しては、児童館の子どもたちも積極的に手伝うようになりました。それまでは商店街の太田さんや峯一雄さん有志が模擬店を出店していましたが、平成26年(2014年)から参商会も主催者側に加わることになりました。

千歳通りと桜樹広場の桜が満開になることと、春休みに子どもたちに楽しんでもらいたいということもあるため、開催時期は3月末から4月初めの日曜日に行っています。ただ、この時期は天候不順な時期でもあり、中止になることもたびたびありました。平成30年(2018年)は第22回の桜まつりが開催されました。

まつりの主な内容は以下の通りです。

(1)まちづくり展示

・これまでのまちづくり活動の記録や写真の展示(歴史写真も含む)

・地域の小学校、中学校の児童生徒が作成した絵や俳句の展示

・30年前のジオラマの展示・都営住宅の模型の展示

(2)参加子どもたちのスタンプラリー

・子どもたちには、会場のコーナーを回りながら説明を聞いたりしてスタンプをもらい、カードにすべてコーナーでスタンプをもらい、満点になればお菓子やソースせんべいなどのゲームができるといった内容です。

(3)ゲーム・伝承遊び

・ヨーヨーや輪投げ、空気鉄砲などのほか、ベーゴマなどの伝承遊びなどのコーナーもあり、児童館も毎年子どもたちが楽しめるゲームを行っています。

・ソースせんべいも人気のコーナーで、いつも行列になっています。

（4）木工・手作りコーナー

・地域の建築関係の団体である東京土建組合の方が、材料を持ってきてくれて、本棚や植木鉢をプロの指導を受けながら参加者が作成します。

・まちづくり会員や地域のボランティアの方の指導による割りばし鉄砲や竹とんぼつくりなども人気のコーナーです。

（5）リサイクルコーナー

・世田谷区の身近なまちづくり推進協議会の方による、ごみ減量や世田谷ロールなどのPRコーナーです。

（6）防災コーナー

・地域の消防団、16分団の団員による救急救命の指導や消防車の紹介など、防災に関心を持ってもらうコーナーです。

（7）バザー・フリーマーケット

・ごみ減量を目的として、リユースの考えから、フリーマーケットコーナーを設けて一般に参加者を募集しています。また、NPOの活動に協力するということで、持ってこられたリサイクル品の販売コーナーもあります。

（8）模擬店

・模擬店は、当初は商店会の出店希望者にお願いしていましたが、地域ぐるみのイベントということから、商店会の組織としての協力が必要ということで、数年前から商店会も共催というかたちになりました。

このイベントの目的は、「子どもたちに思い出となるような機会を作ること」と、小さな子どもがいるということは、新しく桜丘に住み始めた方も多いのではないか。その人たちに「桜丘の歴史や良さを知ってもらうこと」。また、「新しい人たちが住み続けたくなるような環境づくりの活動経過を知っていただくこと」で、街に対する愛情、愛着を持っていただき、ここで生まれ育った子どもたちが「私のふるさと」といえる親子の思い出を作ることです。

平成10年（1998年）の第3回のまちづくり祭りは、桜丘中学校の50周年記念イベントに協力する形で行われました。まち作り活動の展示から稲荷森稲荷神社の大太鼓、経堂商店街の阿波踊り、わらじ作りなどの手作りコーナーに模擬店など地域ぐるみの盛大なイベントとなりました。このイベントがきっかけで、当時、桜丘南町会の長会長だった荒井芳夫さんがまちづくり協議会に参加してもらうことになりました。

VOICE ～ヴォイス～

まちづくり活動に思うこと

荒井芳夫

桜丘のまちづくりに参加するきっかけになったのは、当時桜丘南町会の町会長として桜丘中学校の創立50周年のイベントに参加したことでした。まちづくりの活動状況などの展示もありました。その後、まちづくり協議会の方から是非協力してほしいということで参加するようになりました。

桜丘南町会にも、新しく引っ越してくる住民が増え、この地で生まれた子供たちが宇山神社での催しにも参加するようになりました。子供たちにとっては、生まれた地域が『ふるさと』であり、成長過程において得た思い出がその後の人生に大きく影響すると思っていました。まちづくり協議会の憲章とも言うべき『まちづくりは人づくり』が、私の考えていることと一致するため、喜んで参加することにしました。この地で生まれ育った子供たちが、自慢できるまちであり、この地に住み続けたいなと思えるまちづくりを目指しています。子育てを通じて、親もまたふるさとと思えるような町になればと願っております。このことは、桜丘区民センターの運営協議会の運営に関わるようになっても同じで、区民センターの行事でも、大人も子供も「桜丘に住むことでの思い出作り」につながるような企画を行っています。